

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

横浜市立嶮山小学校

TEL: 902-7161,7162

FAX: 904-4254

令和元年9月30日

嶮山小通信

10月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

校長 山口 昭代

『はばたき』をはさんで、親子で話げできたなら

山口 昭代

吹く風が、確実に涼やかなものになってきています。

10月を前にして、ようやく秋の気配が近づいてきたように思われる今日この頃、まもなく前期の学校生活がまとめを迎え、子どもたちは、自分が積み重ねてきた学びの数々を振り返り始めています。

「振り返る」とは、

○過去の一連の出来事を思い出す。

○自分が行ってきたことを思い返す。

○一人静かに内観する。

○よかったことや、反面、十分ではなかったことを自問自答する。 と、あります。

これらの作業を通して、子どもたち自身が、発達段階に合った、目標に向かうプロセスの軌道修正や補強を行い、新たな試みへの気付きを得て、実践への効力感(意欲・自信・見通し)を次のステージ(後期)へとつなげていくことをねらっています。

振り返ることで見えてきた、自分自身の学習状況や生活行動の様子を「集中した」「満足と言える」「よかった」「やり切った」と思えたり、逆に「もっとできたのに」「あそこがだめだったかも」「いい加減だったと思う」「面倒くさいと感じちゃった」などと悔やんだり、それぞれの感想は多岐に渡ることでしょう。

どちらの思いであったとしても、しっかりと時間を取って自分を見つめ、それを言葉に置き換えて考察できる子は、やはり飛躍する要素の大きい子どもであると思います。

子どもたちにとっては年に二回、嶮山小学校でいえば、前期と後期の最終日に、学校から持ち帰った『はばたき』を保護者のみなさんに見ていただく機会があります。子どもたちは、このときっと、いつもとは違う神妙さや緊張を表情に浮かべながら、この6か月という時間の成果を子どもたちなりに、真摯に振り返っているはずで、正にこの時、保護者のみなさまにお願いがあります。

お子さんが、『はばたき』を、一人で全部、読んだかどうか

(読めない漢字があったとしても、それらを読み飛ばしながらでも)

お子さんは、『はばたき』を読んで、何を感じたのか

それをぜひ、聞いてあげてほしいのです。少ない語彙でも、自分の歩みを振り返って表現しようとする子どものすべてを丸ごと受け止めて、その振り返りこそを評価してあげてほしいのです。『はばたき』をきっかけとして、自分自身を見つめ、よりよい行動選択をしたいと願う子どもの自己実現を、その力を、その夢と希望を育もうとするならば、この、年に二回の、ほんの20分に満たない親子の時間は、貴重なプラチナタイムになることを確信します。

一方、子どもの成長や振り返りの質という観点からは、上記の真逆となる、「この日のシチュエーションの一例」を挙げておきます。

★工作中的の保護者様の携帯に届く子どもからのメッセージ(例)

お子さん「A、11個!O男さんは10個!勝ったよ!!」

保護者「おめでとう!やったね!あといくつでオールA?」

お子さん「あと18個だよ!」

保護者「スマホゲットまでもうひといきだね。がんばろう!」

もしも、これで済んでいくやり取りだけが「振り返り」だとしたら、この半年の子どもたちの努力が、次のステージへの効力感(意欲・自信・見通し)に結び付くことの困難さを感じずにはられません。

子どもたちが、明日にはばたくための本物の力をつけていられるように、嶮山小学校教職員一同、10月も頑張っています。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

